



子どもたちの遊びの様子を撮影し、動画（事例）をもとに研修が行われました。

## ～子どもが感じている面白さってなに？～

保育者の願い  
保育者の見取り

### 事例Ⅰ フルーツバスケット

子どもたちが椅子を持ってきてフルーツバスケットの隊形を作ろうとしているが、隊形が丸くならない。



隊形を作るところから、子どもたちに考えてほしい。

子 「これじゃできない（遊べない）よ」  
子 「もっとこっちじゃない?!」

隊形が丸くなり遊び始める。

子 「メロン!」  
子 「ワ～」



子どもたちは、楕円形だと、遊ぶとき移動範囲が広くなり遊びづらいことは分かっている。

他の席に移動する子、空いている席を見つけている子、  
**真ん中に立ちなかなか座ろうとしない子**など様々な姿が見られた。

なかなか座ろうとしない子に・・・

保 「ここ空いてるよ」  
子 「ここも・・・」



子どもたちはルールを分かっている。**本来の遊び方で遊んでほしい。**

子どもの面白がっていることと、保育者の思いにズレが生じている。



### グループワーク

## 子どもにとってのフルーツバスケット（遊び）の面白さについて話してみよう!



いつ自分のフルーツが呼ばれるかドキドキする。



移動すると隣の子が変わるからうれしい。



自分の指示でみんなが動いてくれる面白さがある。

### まとめ

ルール通りに遊ぶことは、必ずしも子どもにとっての面白さにつながることもある。子どもには、大人とはちがう面白さがある。大人はそれに気づくことが必要。



なかなか座ろうとしない子は、自分の指示でみんなが動いてくれることに面白さを感じていた。フルーツバスケットでは、真ん中が一番目立つ役割（勝ちの感覚に近い）とも言える。大人にとってちょっと困った姿が、子どもにとっての面白さを教えてくれることもある。



# ～イメージのズレがあるかも?～

## 事例2 謎の毛玉はなんだろう?

白くフワフワしたもの(謎の毛玉)を発見!!

- A 「ひつじのけだ!」
- B 「ひつじのけがとんできたんだ」



子どもたちは、刈った羊の毛が、どこからか飛んできたイメージだった。

だんだん子どもたちが集まってきて…。謎の毛玉を囲んで、見つめている。

- 子 「ふんだらダメ!」
- 保 「どこから来たのかな?」「Cくんは、なんだと思う?」
- C 「う～ん…(考えて) しまうまのはがたみたいなのとおもう」



他の子どもの話を聞いて、動物で合わせたのだと思う。

みんなが空想の世界を楽しんでいるように見えるが…。



## 不思議の世界をどうつなげていくか?

イメージがピンときてない子どもへの関わり。

みんなの園ではどうしてますか?

- ・見つけたものを写真にして、図鑑で調べる。
- ・ミニ図鑑、虫眼鏡を持ち出して調べている。…など

### まとめ

大きな枠で見ると同じ遊びだが、少しづつイメージがズレていることがある。保育者がそれを理解しているかが、大きなポイント。ふわっとした関わりを楽しんでいくことが大事。



知りたい気持ちをつなげていく。イメージの共有が難しい子どもがいるときは、みんなが知っている絵本や物語のイメージを共有していくと、つながりやすくなる。



# ～一人一人違うものを作っていたはずが…～

## 事例3 中型積木で遊ぼう

廊下で、それぞれが好きなものを作って遊んでいる。

△の積木を角に見立てて、ユニコーンを作っている女児。

日暮里舎人ライナーを作っている男児。その側でSLを作っている子。

いつの間にか、日暮里舎人ライナーとSLがつながって…。

- A 「トーマスつくろう」
- B 「ここはベットね」
- A 「ちがう、こっちじゃない」



自分のイメージに近くなる、積み木の組み立て方が分かってきた。



友だちと協力して積み木を運び、イメージを共有して遊んでいる姿が見られるようになってきた。

「これ作ろう。」と計画的に作り出すと、作品になり「明日も作ろう。」と継続性が出てくる。



## どうやって遊びを次につなげていく?

みんなの園ではどうしてますか?

- ・遊んでいた玩具をとって置きたい理由を聞き、気持ちを汲み取っていく。
- ・(幼稚園は)チャイムが鳴ったら片付け。



子どもにとって、片付けとは何かを、子どもの目線になって考えていく。

鬼に捕まったらバナナになるところ、逃げるのが楽しい。という思いから捕まってもバナナにならない児が数名いた。大人と子どもが感じる面白さにズレがあると感じた。子どもたちの遊びを見守っていると数日後、自分が感じていた面白さに満足しきったのか、周りの子を見て同じ遊び方(捕まったらバナナになる)をしようとする姿が見られた。それぞれが感じる面白さを保障していきたいと改めて感じた。

## 研修生の報告書より